

茨城県地域日本語教育体制づくり ～地域日本語教育コーディネーターとしての活動～

茨城県国際交流協会 地域日本語教育コーディネーター
ボランティア日本語教室「つくばみらい市 日本語ひろば」副代表
蔭木 隆

茨城県 地域日本語教育体制づくり事業

目的：県内の在住外国人が、どこにいても日本語学習の機会が得られる環境と関係機関の連携体制を構築する。

（＊地域日本語コーディネーターは、県内を県北、県央、県西、県南の４ブロックに分け体制づくりの支援を行う。蔭木は主に県南ブロックを担当する。）

1. 活動計画と活動報告

月	活動計画	考えたこと・行ったこと
8月	・行政職員対象の地域日本語教育連絡会議の実施 ・形態：各ブロック/オンライン	・県南ブロック職員参加者数：14人 ・行政職員と外国人との意見交換、行政職員同士の意見交換を行う。
9月	・支援者対象の地域日本語教育連絡会議の実施 ・形態：各ブロック/対面	・県南ブロック支援者参加者数：25人 ・地域日本語教室から広がる可能性をテーマにワークショップ形式で実施
10月	・日本語教育支援者養成講座の講座コーディネーターを担当	・講座（全5回）の流れ及び内容を各回の講師と調整した。
11月	秋の日本語支援者養成講座の実施（空白地域対象） 形態：オンライン	受講者数：34人（定員：30人） 第4回講座では、一人の支援者の立場で講師を務める。
12月	・対象とした空白地域の受講者と親睦会の実施 形態：対面	・対象地域在住の受講者と県職員・協会・地域日本語教育推進員と講座コーディネーターで実施した。
1月	・冬の日本語支援者養成講座の実施（全県対象）オンライン	・秋の講座とほぼ同じ内容で、対象を全県として講座（全5回）を実施する。
2月	・茨城県地域日本語教育の体制づくり推進事業 年度報告会	・オンラインで報告会を実施する ・報告項目の内、養成講座の報告を担当する。

2. 地域日本語教育連絡会議（8月・9月）参加者の感想から見てきたこと

参加者より、支援者同士のつながりが必要であるとの感想が多くあった。

- ・自治体と日本語教室との連携
- ・近隣地域の連携
- ・ボランティア同士のつながり
- ・行政や各種団体とのコミュニケーション作り

3. 秋の日本語支援者養成講座（11月～12月）

講座名：新しい茨城 高萩市・行方市のための 日本語支援を考える会

第1回 外国人も地域の仲間なのだ ～私のまちの多文化共生～

第2回 コミュニケーションの手段は日本語だけ？ ～地域日本語教室を再考する～

第3回 気持ちを伝えたい！わかりたい！ ～歩み寄りのための方策～

第4回 楽しくなくちゃ、動けない ～空間・時間を共有する場への挑戦～

第5回 地域でいっしょに暮らそう ～外国人と協働のまちづくり～

- ・秋の講座は、受講者は対象空白地域を含む県内の在住者とした
- ・多文化共生についても考えてもらい、新たな気づきを見つけてもらうことを期待する。
- ・1回から5回までの連続講座とし、受講後の活動をイメージできる講座の流れとした。
- ・グループワークを主体とし、参加者同士が話し合う中で新しい気づきを発見してもらう。
- ・第1・2・3・5回の講座は、日本語専門家が担当し、自身が担当する第4回講座は、支援者のひとりとして私の考え（だれのために、何のために）が変わってきたことを紹介する。
- ・第4回の講座で、私の一人の日本語支援者としての気づきの変化から、地域日本語教室の役割を、そして第5回では、外国人ゲストにも参加してもらい、受講者と一緒に多文化共生の地域づくりの日本語活動案を考え、各グループで発表しました。

4. 秋の日本語支援者養成講座／受講者アンケート結果（29件の回答）

- ① 連続講座の内容はどうでしたか？
 - ・とても良かった 72.4%、・良かった 24.1%、・普通 3.5%
- ② 講座受講により自分が出来ることで具体的な行動につなげようと思いましたか？
 - ・思った 100%、・思わない 0%
- ③ 講座受講により、地域に住む外国人に対する意識や接し方が変わりましたか？
 - ・変わった 48.3%、少し変わった 31%、変わらない 20.7%
- ③-1 「変わった、少し変わった」どのようにかわりましたか？（複数選択：23件の回答）
 - ・共生社会の実現の必要性をより感じるようになった 19（82.6%）
 - ・外国人の出身国の文化・習慣に対する関心が広がった 17（73.9%）
 - ・地域住民同士であるという意識が深まった 13（56.5%）

【所感】

・受講者は幅広い年齢層で属性も異なったが内容について概ね高評価を得た。新しい地域日本語教育の視点に共感してもらえた。8割以上出席した受講者が8割を超えた。

5. 対象地域での親睦会（12月）

・日本語教室空白地域で講座修了者同士が実際に対面する場を設け、自分たちの町での外国人支援について情報を共有した。受講者が市町村担当者とこれからの活動を話合った。

6. 冬の日本語支援者養成講座／受講者アンケート結果（27件の回答）

① 連続講座の内容はどうか？

・とても良かった 63%、・良かった 33.3%、・普通 3.7%

② 講座受講により自分が出来ることで具体的な行動につなげようと思いましたか？

・思った 100%、・思わない 0%

【所感】

・秋講座に続き、冬講座も受講者全員が、「講座受講により、自分ができることを具体的な行動につなげようと思った」とのアンケート結果を得たのは大きな成果であった。

・自治体やボランティア日本語教室といった所属や立場が違って、小名 j 子目的に向かって活動している「仲間同士」だという共通認識を持つことができた。

7. 活動のふりかえりとまとめ／今後に向けて

・活動を通して、日本語教育推進員、協会関係者、県職員のみなさん、そして受講者として参加された自治体職員、支援者等の多くの方々とつながりを作ることができた。

・受講者が各地域の活動の核となり、地域日本語教育体制づくりが推進できるように活動の支援をしていく。

茨城県地域日本語教育の体制づくり 地域日本語教育コーディネーター

地域で暮らす外国人への日本語学習支援と地域とのつながりづくりのため、地域特性をふまえ、多様な関係者間の橋渡し、意見調整を行います。



ウメ（県西）エリア担当
内田 ちひろ
・地域日本語サークル代表
・日本語教師
---メッセージ---
外国ルーツの方が多くなりました。共に地域に暮らす隣人としてお互い幸せに暮らせるように皆様と一緒に考え、協働していきたいです。

ヒラメ（県央～県北）エリア担当
仙波 美哉子
・地域日本語教育推進員
・ひたちなか市国際交流協会副代表
---メッセージ---
地域日本語教育を通して全ての人が安心して暮らせる地域づくりを皆さんと考えていきたいです。

バラ（県南）エリア担当
蔭木 隆
・国際交流基金
・日本語パートナーズインドネシア派遣
・地域日本語ボランティア教室活動中
---メッセージ---
「楽しい」から始まる地域住民のつながり作りをいっしょに！

ヒバリ（県央～鹿行）エリア担当
羽鳥 愛
・地域日本語教育推進員
・多文化共生グループおみたまじん代表
---メッセージ---
外国人と日本人住民が共に暮らしやすい地域づくりについて、皆様のご意見をぜひお聞かせください。

問い合わせはお気軽に！ （公財）茨城県国際交流協会 ☎029-241-1611 ✉ia@ia-ibaraki.or.jp